

田川議員（公明党）

平成24年2月24日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）職業教育に重点を置いた指導を行う高等特別支援学校の設置について

平成20年7月策定の「広島県特別支援教育ビジョン」に基づき、生徒の職業的自立を促進するため、平成21年4月、知的障害特別支援学校高等部普通科に、職業コースが設置された。障害者の職業的自立は、本人のみならず、保護者の強い願いでもある。しかし、入学定員は、広島北特別支援学校が2学級16人で、福山北特別支援学校がわずか1学級8人である。

一方、近年では、特別支援学校の在籍者数が大きく増加している。この10年で約1.7倍にも達しており、職業的自立をめざす教育のニーズは益々増大するに違いない。

こうした状況に対応するためには、職業教育に重点を置いた教育課程を編成し、就労支援機関や産業現場等との連携を図りながら、職業的自立を目指す、高等部単独の特別支援学校が必要となる。現在、22都道府県の55校で、職業教育に重点を置いた指導を行う高等特別支援学校が整備されており、中国地方では、岡山県で、岡山瀬戸高等支援学校、倉敷琴浦高等支援学校が開設されている。

そこで、本県においても、こうした高等特別支援学校の設置を検討してはどうかと考えるが、所見を伺う。

（答）

本県においては、増加している特別支援学校の児童生徒の自立や社会参加を図るため、平成20年7月に策定いたしました「広島県特別支援教育ビジョン」に基づき、一人ひとりの教育ニーズに応じた指導の充実などに取り組んでいるところでございます。

具体的には、特別支援学校高等部卒業者の就職率の向上を図るため、作業学習などの授業改善を進めるとともに、就職を支援するジョブサポートティーチャーを増員して、職場実習の受け入れ企業や就職先企業の開拓などに取り組んで参りました。

こうした取組の結果、これまで全国平均を下回っていた就職率が、昨年度、全国平均を上回ったところでございます。

また、平成21年度に特別支援学校2校に設置した職業コースの生徒が、本年3月に初めて卒業することとなり、現時点での就職内定率は93パーセントを超えているところでございます。

教育委員会といたしましては、今後、職業コース設置の効果の検証を進めるとともに、児童生徒数の推移や通学の利便性などを考慮しつつ、高等特別支援学校の設置について検討して参りたいと考えております。